

(技術名) 沖縄県におけるタヒチライムの特性							
(要約) <u>タヒチライム</u> は年間を通して果皮の黄化や酸切れ等の <u>果実品質</u> に大きな変動はなく、果実品質は安定している。四季咲きであるが <u>着花数</u> には <u>季節変動</u> が見られ、収量は7～12月に多く、8年生樹の年間 <u>収量</u> は53kg/樹程度である。							
農業研究センター名護支所・果樹班					連絡先	0980-52-0052	
部会名	果樹	専門	栽培	対象	カンキツ	分類	指導
普及対象地域							

[背景・ねらい]

ライムは独特な風味をもつことから飲食店を中心に需要があり高単価で取引されているが、そのほとんどが海外産で占められている。冬期に気温が低下する地域でライムを栽培すると果皮が黄化するなどの問題が発生するが、気候が温暖な沖縄県ではライムの安定生産が期待される。本県においてライム栽培が可能となれば、高単価な新規品目としてカンキツ産地の育成に繋がることが予想される。そこで、本県におけるタヒチライムの果実品質や開花習性、収量性等の基本特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 果実は冬期に果皮色がやや薄くなる傾向が見られるが、顕著な黄化や酸度の低下(酸度5%未満)等は見られず、果実品質は年間を通して概ね良好である(表1、図1)。
2. 四季咲きだが着花に季節変動が見られ、有葉花は2～5月、直花は1～3月に多い(図2)。
3. 1～2月の着果率は1%未満と低い、3～8月は1～10%程度で推移する(データ省略)。
4. 開花から果実横径50mmに達するまでの日数は、90～135日程度であり、有葉果と直花果で肥大速度等に大きな差はなく、カンキツ類では一般的に果実肥大が劣るとされる直花果も利用可能である(データ省略)。
5. 7～12月にかけて収量が高くなり、2020年(樹齢8年時)の年間収量は53.4kg/樹、生産額は136万円/10a程度である(表2、3)。
6. タヒチライムはかいよう病に感受性が高く、果実の発病割合は4.8%程度である。また、カイガラムシ等の発生が見られるため、定期的な薬剤防除が必要である(データ省略)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は普及指導員および営農指導員、カンキツ生産者を対象に、タヒチライム導入の際の参考資料として活用する。
2. タヒチライムの苗は苗業者やホームセンター等で購入可能である。
3. 試験は名護支所ほ場において実施し、供試樹は2014年2月に2年生苗を定植したシークワサー台木のタヒチライム3樹である。
4. 供試樹は露地栽培、栽植距離5m×6m、年間窒素施肥量40kg/10a、殺虫・殺菌剤の年間散布回数はカンキツ慣行防除と同程度の各8回前後、毎年2月剪定の条件下で栽培した。
5. 強風による枝の折損やかいよう病の蔓延を防止するため、防風林や防風ネットの整備された園地で栽培する。

[具体的データ]

表1 収穫月別果実品質（2018-2020年）

	調査 果数 ¹⁾	横径 (mm)	果実重 (g)	果皮色 ²⁾	黄化 歩合 ³⁾	果汁 歩合 ⁴⁾	糖度 (° Brix)	酸度 (%)
1月	74	55.9	94.8	0.9	0.9	0.34	8.0	7.0
2月	52	56.4	99.4	0.8	0.6	0.37	8.0	6.6
3月	38	54.7	89.3	0.7	0.7	0.33	7.6	6.3
4月	44	56.3	96.5	0.6	0.7	0.33	7.3	6.2
5月	12	53.6	85.0	0.7	0.5	0.32	7.3	5.8
6月	32	54.2	88.5	0.5	0.3	0.34	7.5	5.7
7月	63	54.6	93.1	0.6	0.5	0.34	7.6	6.2
8月	88	56.1	102.5	0.6	0.5	0.35	7.9	6.9
9月	89	57.5	107.6	0.6	0.4	0.39	8.0	7.1
10月	82	57.3	105.8	0.6	0.6	0.37	8.2	7.1
11月	79	57.3	103.4	0.8	0.5	0.37	8.6	7.4
12月	82	57.0	103.3	0.8	0.5	0.35	8.7	7.4
平均		55.9	97.4	0.7	0.6	0.35	7.9	6.6

- 1) 毎月中旬に果実横径50mm以上の果実を収穫した。
2) 農林水産省果樹試験場基準果実カラーチャートレモン色系
(0～6: 数字が小さいほど緑、大きいほど黄色)
3) 果皮の黄化している面積割合を遠視で調査 (0: 黄化無し～10: 全面が黄化)
4) 手絞り器で搾汁した果汁重/果実重

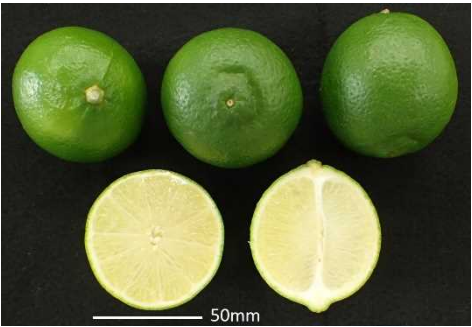


図1 タヒチライムの果実（8月収穫）

表2 月別収量データ 単位: kg/樹

収穫月	2018年	2019年	2020年
	6年生 ¹⁾	7年生 ¹⁾	8年生 ¹⁾
1月	1.2	2.6	2.1
2月	0.6	1.0	1.0
3月	0.4	0.8	0.4
4月	0.8	0.6	1.5
5月	0.2	0.0	0.1
6月	0.2	0.2	0.8
7月	2.6	3.3	6.8
8月	4.2	11.2	12.7
9月	9.3	8.2	10.5
10月	2.1	4.6	10.2
11月	5.0	2.2	3.9
12月	3.6	4.6	3.4
合計	30.2	39.3	53.4

1) 収穫時の樹齢

表3 収量および生産額の試算

年	kg/樹	kg/10a ¹⁾	円/10a ²⁾
2018	30.2	997	770,372
2019	39.3	1,297	1,002,504
2020	53.4	1,762	1,362,181

1) 33樹/10a(栽植距離 5m×6m)

2) 773円/kg(2018～2020年における沖縄県中央卸売市場のライム平均単価)×10aあたり収量

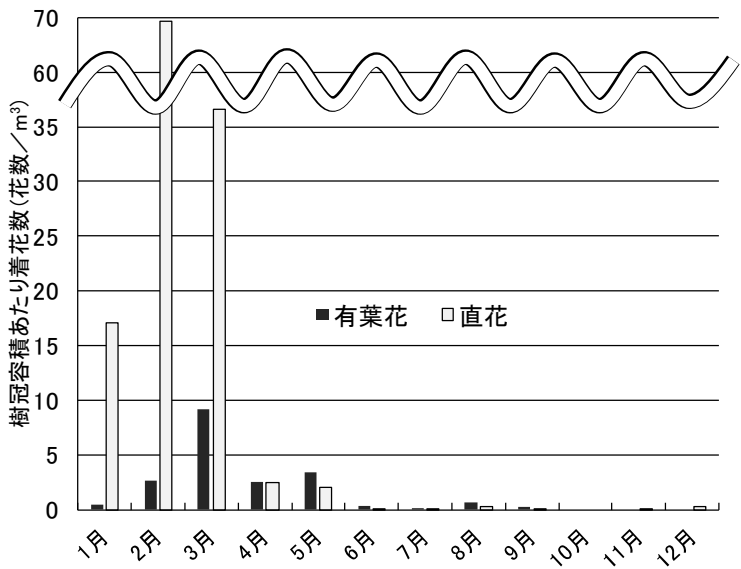


図2 樹冠容積あたり着花数の季節変動（2018-2020年）

※樹冠容積は樹高×樹冠長径×樹冠短径×0.7で求めた。

[その他]

課題ID: 2018農015

研究課題名: 沖縄県における熱帯性柑橘ライムの生育特性の把握

予算区分: その他(果樹産地総合整備事業)

研究期間(事業全体の期間): 2018～2020年度

研究担当者: 光部史将、金城美沙、阿波根直恭、澤岨哲也

発表論文等: なし